

⑫ 公開特許公報(A) 平3-161470

⑤ Int. Cl.⁵C 07 D 209/42
A 61 K 31/40

識別記号

AAH
AAK

庁内整理番号

7252-4C

⑬ 公開 平成3年(1991)7月11日

7475-4C※

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全17頁)

⑭ 発明の名称 インドール誘導体

⑰ 特 願 平1-297498

⑱ 出 願 平1(1989)11月17日

⑲ 発 明 者 谷 内 誠 埼玉県川越市末広町3丁目4番地8
 ⑲ 発 明 者 佐 藤 裕 明 埼玉県入間郡大井町緑ヶ丘2丁目23番16号
 ⑲ 発 明 者 菊 池 春 彦 埼玉県入間郡鶴ヶ島町松ヶ丘5丁目7番20号
 ⑲ 発 明 者 萩 原 幸 一 郎 埼玉県川越市新富町2丁目30番地3
 ⑳ 出 願 人 日清製粉株式会社 東京都中央区日本橋小網町19番12号
 ㉑ 代 理 人 弁理士 高木 千嘉 外2名

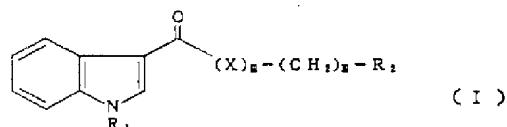
最終頁に続く

明 細 書

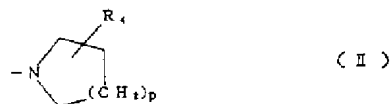
1. 発明の名称 インドール誘導体

2. 特許請求の範囲

次の一般式(I)



(式中、R₁は水素原子、C₁~C₆アルキルであり、R₂はモルホリノ、メチルピペラジノ、ベンジルピペラジノ、または不飽和のヘテロ環基(このヘテロ環基は炭素芳香環と縮合してもよいものとする)かまたは環上にカルボニル基を有する飽和ヘテロ環基であるか、または下記一般式(II)



(式中、R₄は水素原子、低級アルキル、ベンジルであり、pは1~3の整数である)で表わされる飽和環状アミンであり、XはNHまたはNR₁であり、R₁はC₁~C₆アルキルであり、mは0または1であり、nは0、1~5の整数であり、-(CH₂)_n-中の水素原子の少なくとも1個はC₁~C₆アルキルで置換されていてもよいものとする)

で表わされる化合物、およびその薬理学的に許容される酸付加塩、並びにその第4級アンモニウム塩およびN-オキシド誘導体。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、新規なインドール誘導体およびその製造方法に関する。

さらに、本発明は5-HT₁受容体における5-HTに対する選択的に有効な拮抗物質である新規なインドール誘導体に関する。本発明のインドー